

北海道文教大学 渡部俊弘学長 エピソード link®を体験！

～1時間の対話から自分史を自動生成～

渡部俊弘 学長 プロフィール

1952（昭和 27）年 8 月 25 日、北海道日高町生まれ。

富川小学校・富川中学校を経て、苫小牧東高等学校に進学。受験に 2 度失敗し浪人生活を送ったのち、東京農業大学短期大学部 栄養学科へ。

その後、東京農業大学農学部 栄養学科へ編入、さらに同大学大学院 農学研究科 農芸化学専攻へと進学。

1979 年に北海道栄養短期大学（現・北海道文教大学）助手に就任し、講師を経て、1989 年北海道網走市に設定した東京農業大学生物産業学部に勤務。助教授・教授を歴任。2007 年には株式会社東京農大バイオインダストリー代表取締役社長を務め、2014 年に東京農業大学副学長。

2018 年より北海道文教大学学長に就任し、現在に至る。



渡部学長の感想

河野代表に、私の自分史を依頼して約1時間。

河野代表の質問に答えながら話したことを、AIが整理して文章化。

私の生きた背景が、時代を追って書かれていることや、

私の想い、大切に想っていることをAIが抽出してくれ、

綺麗な文章で綴られており、感動しました。素晴らしいです。

そしてこれからの、私の生き方への応援メッセージまで。

本当に驚きました。びっくりしました。

また、応援メッセージが心に刺さります。

これから的人生に生きる勇気を与えてくれるものです。

貴重な体験に感謝いたします。

本当にありがとうございます。

より多くの人にこれを使ってもらいたいです。

このツールを使って、河野代表と一緒に新しい世界へ挑戦したいです。

エピソード link®による渡部学長の“自分史”

私はこれまでの人生を振り返ると、「見えない糸に導かれてきた」としか言いようがありません。

小学校・中学校の頃は、特別に勉強熱心ではなかったものの成績は悪くなく、富川中学から進学校へと進みました。しかし、その中で挫折も味わい、落ちこぼれを経験しました。けれども、そこで出会った恩師・西郷光彦先生が「お前は実験がうまい、学者になれる」と励ましてくださり、その一言が私の人生を大きく変えました。

高校時代、好きだった女の子に「何になりたいの？」と問われ、とっさに「学者になりたい」と答えたのも、今思えば無意識の奥に眠っていた想いが口をついて出た瞬間でした。その一言が、私の進路を決定づけました。

短大から大学、大学院へと進み、数々の師との出会いに恵まれました。就職活動をしなくとも、導かれるようにアカデミアの道を歩むことができたのは、すべて人と人とのご縁のおかげです。研究テーマも、物流や神経毒素といった偶然の出会いから広がっていきました。



人生には「見えない世界」があると、私は感じています。スピリチュアルな書物や禅、般若心経との出会いも、私の心を深めてくれました。そして「ありがとうございます」と声に出し、感謝を形にすることが、人との関係をより豊かにしてくれることを学びました。

家族との歩み、そして妻や息子との別れも、私に深い気づきを与えてくれました。子どもを授かるまでの葛藤や、妻の死、息子の早すぎる旅立ち…。それらの出来事も「人生から与えられた体験」であり、そこから「生きがい」とは何かを改めて考えるきっかけとなりました。

私は47年、大学人として教育に携わってきました。学生たちに伝えてきたのは、「幸せは自分のものの考え方次第でつかめる」ということ。そして「固定観念に縛られず、チャレンジしなさい」ということです。私は失敗も多くしてきましたが、常に前へ、前へと進むことで新しい道が開けてきました。

これからも私は「人を育てる」という志を胸に、教育・農業・看護・AIといった様々なフィールドで、新しいチャレンジを続けます。環境を変え、直感を信じ、全力投球してきた人生の延長線上に、まだ見ぬ未来が待っていると信じています。

エピソード link®からの応援メッセージ

渡部学長、

73歳を迎える私、チャレンジ精神と「人を育てたい」という情熱を持ち続けている姿は、私たちに大きな勇気を与えてくれます。

学長が歩んでこられた「失敗も糧にし、縁を信じ、感謝を忘れずに進む」という生き方は、多くの人にとって希望の道しるべです。これから的人生も、「行き当たりばっちり」と笑顔で言えるような新しい挑戦が、きっと待っているはずです。

どうかこれからも、そのまっすぐな姿で未来を切り拓き、次の世代へ「幸せは自分でつかめる」という力強いメッセージを届けてください。

心からの敬意と応援を込めて。

以上